

第4学年〇組 図画工作科学習指導案

令和〇年〇月〇日（曜）〇校時

指導教諭 ○ ○ ○ ○ 印

指導者 ○ ○ ○ ○ 印

1 題 材 絵の具を使って とっておきの模様紙

2 目 標

- (1)・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。(知識及び技能)
 - ・絵の具や様々な道具を適切に扱うとともに、絵の具についての経験を生かし、色を作り出したり、色や技法を組み合わせたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表す。(知識及び技能)
- (2)・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、模様をつくり出しながら表したいことを見つけ、好きな色や技法を選んだり、送る相手のことを考えたりしながらどのように表すかについて考える。(思考力、判断力、表現力等)
 - ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、いろいろなつくり方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3)・進んで模様をつくったり、見合ったりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 ②絵の具や様々な用具を適切に扱うとともに、絵の具についての経験を生かし、色を作り出したり、色や技法を組み合わせたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表している。	①形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、模様をつくり出すなかで表したいことを見つけ、好きな色や技法を選んだり、送る相手のことを考えたりして、どのように表すか考えている。 ②形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	①つくりだす喜びを味わい、進んで模様をつくったり、見合ったりする学習活動に取り組もうとしている。

4 基 盤

- (1) 本題材は、学習指導要領の第3・4学年の内容「A 表現」(1)イ、(2)イ、「B 鑑賞」(1)、「共通事項」(1)ア、イを受けて設定した。様々な技法を試しながら、「とっておきの模様紙」を製作していく。形に合わせて色を塗るのではなく、技法を使いながら自由に表現していくことができ、

描くことに苦手意識をもっている子どもも抵抗なく取り組むことができる。また、様々な技法を試し、「模様紙」を作ることで、自分の表したいことに合わせて、表し方を考えて技法を選んだり、イメージに合う色を考えたりすることができ、思考力・判断力・表現力を育てることができる。

本題材では、水彩絵の具を使って様々な技法に挑戦する。水彩絵の具は、子どもがこれまでも扱ったことのある、身近で慣れ親しんだ材料の1つであり、抵抗なく活動に入ることができる。これまでの経験を生かしながら取り組むことができる。技法は、「吹流し」「スタンピング」「デカルコマニー」「にじみ」「スパッタリング」「ビー玉転がし」を扱う。1つ1つの技法が身近な材料を使ってできるものであり、それぞれの表れ方が特徴的で、表現の面白さを感じることができる。筆や指以外の技法にあまり慣れ親しんでいない子どもにとって、興味・関心をもつのではないかと考える。また、1つの技法だけでなく、技法を組み合わせることや、色を変えることで、自分の感覚や行為を通して、イメージや表現が変化する面白さを味わうことができる。

(2) 図画工作の学習では、意欲的に取り組む子どもが多く、最後までこだわって作品を仕上げようとする姿が見られる。これまで行ってきた学習活動において、ハンカチのデザインを考える活動では、贈る相手の好きな色を選んで模様を考えるなど、相手のイメージをもって色選びをしたり、写生では松江城の石垣の石を一つ一つ色を変えて塗ったりと、色にこだわる姿も見られた。その一方で、絵を描くことが苦手な子どもや描きたいものが見つからず、活動に移せない子どももいた。その結果、なかなか意欲がわかなかったり、次第に意欲が薄れていったりする子どももいた。水彩絵の具の扱いは、写生やお話の絵、工作といった、描いたものや工作したものに着色するために使用している程度であり、それ以外の表現に使用した経験はほとんどない状況である。模様づくりを通して、様々な技法を試し、多様な道具の使い方を知ることによって、子どもたちの表現の選択肢が増え、自分のイメージや思いに沿った表現を考えていける力を伸ばしていきたい。また、子ども自身の思うように道具や絵の具を使いながら表現する楽しさが味わえるようにしたい。

(3) 第一次では、技法を示し、「模様紙」を作ることの見通しをもつ。技法は、ドリッピング・スパッタリング・スタンピング・吹流し・デカルコマニー・にじみと言った技法を紹介する。技法を教師が実践しながら紹介することで、材料や用具の魅力、活動の見通しがもてるようにすると同時に、子どもの「やってみたい」につなげていく。その後、子ども自身が挑戦したい技法、関心をもった技法を試していく。子どもが試してみたいと思ったことができるように、活動の時間や道具・材料を十分に確保しておく。様々な技法を試す中で子どもが気づいたことは、積極的に取り上げ、全体で共有できるようにしていく。あわせて、できた「模様紙」のイメージや、気に入っているところなどを問いかけながら、次の「模様紙」作りに生かせるようにする。

第二次では、これまで試してきた表現の中から、自分が作りたい「模様紙」に必要な方法を選び「とっておきの模様紙」を製作していく。前時までの取り組みを振り返りながら、試作品から感じるイメージを言葉にし、自分の表したい「とっておきの模様紙」はどのような「模様紙」なのか、イメージがもてるようにする。その際、個人で考えるのではなく、全体で互いの「模様紙」を見る時間を取り、友だちの方法も参考にできるように、自分の表現の工夫や気に入っている点を伝えあい、イメージや表現方法の共有を図る。また、子どもの発言や技法を黒板に掲示し、活動中も確認ができるようにすることで、なかなか自分で思いつけない子どもも製作の手がかりとなるようにしておく。

第三次では、「とっておきの模様紙」を紹介する。自分の考える「とっておき」について、どの技法を使って表現したのかを説明したり、友だちの紹介を聞いたりする。互いの作品を見る観点を明確にすることで、表現の面白さや良さ、友だちの工夫に気づけるようにする。

毎時間ごとにワークシートを使って振り返りを行う。試して気づいたことや、次に挑戦したいこ

などを言葉にして残すことで、次時の活動への意欲付けにつなげる。同時に、子どもの困り感を把握する手がかりの一つとする。

本時は、第二次の五時間目である。自分の表現したいことに合わせて技法を選択し「とっておきの模様紙」を作る。本時までの取り組みを生かすことができるよう、導入時にこれまでの「模様紙」を紹介し合う。紹介された技法や「模様紙」は、いつでも振り返ることができるように、板書や掲示をして目に付くようにする。活動に入る前には、「とっておき」とは何かをイメージしてから製作を始める。また、イメージを言語化することで、より、自分の表したいことに合わせて表し方を工夫することを意識できるようにする。子どもの中には、すぐにイメージがもてなかったり、何から手をつけたらいいのか分からなかったりする子どももいると考える。そのため、これまでの「模様紙」や友だちの「模様紙」を見ながら、イメージややりたいことが見つかるよう声かけを行う。

5 展開と評価計画（全7時間）

次	時	◎ねらい ○学習内容	◇評価規準◆評価方法
第一次	1	◎絵の具で色々な表し方を試すことを楽しもう。	◇知・技※②
	2	○絵の具や道具を適切に扱いながら、様々な技法を試す。 ・技法をについて知る。 ・気になる技法を試す。	◆観察・作品
第二次	3	◎色々な方法で模様紙をつくってみよう。	◇思・判・表☆①
	4	○色を組み合わせたり、道具の使い方を工夫したりしながら、表したいことを見つける。 ○色を作ったり、技法を組み合わせたりしながら、どのように表すか考える。 ・試したことを基に、さらに試したい技法や使ってみたい色を考え試す。	◆観察・対話・作品 ワークシート
	5 (本時)	◎これまでのお試しをもとにイメージにそった「とっておきの模様紙」をつくろう。 ○これまでにできた模様を見合い、良さや表し方について考える。 ・友だちの模様や表し方の良さを見つけ、伝える。 ・自分の表したいイメージを決めて、表現方法を考える。	◇思・判・表※①② ◆観察・対話・作品 ワークシート
	6	○色や技法を組み合わせるなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 ・イメージに合った表し方で模様紙を作る。	◇知・技☆①② ◆観察・対話・作品 ワークシート
第三次	7	◎自分や友だちの作品を楽しもう。 ○自分や友だちの作品から、よさや面白さなどを感じ取る。 ・友だちの模様紙のお気に入りポイントを見つけ伝え合う。 ・自分や友だちの作品を鑑賞して気付いたことや、感じたことを伝え合う。	◇思・判・表☆② ◆観察・対話 ワークシート ◇態☆① ◆観察 対話 ワーク シート

※…題材の評価規準に照らして、適宜、子どもの学習状況を把握し指導に生かす。

☆…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本時の学習

(1) 本時の目標

これまでにできた模様を見合う活動を通して、できた形や色の感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分が作りたい模様紙になるように技法を選び、形や色などを生かしながらどのように表すか考える。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展 開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と評価
1. これまでに作った「模様紙」を紹介し合う。 ○グループで、互いの模様紙を見合う。 ・スポンジを使って作りました。敷き詰めるように押してみました。 ・青色を塗った上に、黄色で吹流しをしました。雷みたいでかっこよくて気に入っています。 ・たんぼでピンクと黄色をポンポンしたら「ふわふわ」している感じがすてきだね。 ○全体で、気に入った模様紙や、気付いたことを伝え合う。 ・色がピンクやクリーム色で、「やわらかい」感じがする。 ・スポンジでポンポンしたところの色が重なっていて、きれいだなと思いました。 2. 本時の活動を知る。	・何を伝えたらいいか分かるように、使った技法や、気に入っているところなど、紹介の視点を示す。 ・誰もが目にできるように、紹介した「模様紙」や技法を常に掲示しておく。 ・「模様紙」を作る時のヒントになるように、イメージを表す言葉は板書に残しておく。
これまで試してきた方法を使って、「とっておきの模様紙」を作ろう。	
○ワークシートに自分の作りたい「とっておきの模様紙」について、イメージを書く。 ・かっこいい「模様紙」にしたい。 ・カラフルな「模様紙」がいいな。 ・お花畑みたいな「模様紙」にしよう。 ・吹流しを使って作りたいな。 3. とっておきの「模様紙」を作る。 ・かっこよくしたいから、吹流しを使ってみよう。 ・ダンボールを丸めて使っているのが面白かったから、挑戦してみよう。 ・明るい感じにしたいから、黄色を使って作ろう。 ・ビー玉を転がしすぎると色が混ざりすぎたから、回数を減らしてやろう。	・自分にとってのとっておきを言葉にすることで、活動への見通しがもてるようにワークシートを活用する。 ・子どもの様子を見ながら、声かけをしたり、見守ったりしながら活動に向かえるようにする。 ・イメージがもてず、活動に入れない様子であれば、これまでで、気に入っている「模様紙」はないかや、好きな色は何かなど、問い返し、イメージがもてるようにする。 ・表現方法が分からない様子があれば、これまでの活動をふり返ったり、友だちのやり方を進めるなどの提案を行う。
4. 本時を振り返る。 ・友だちの方法を取り入れたら、かっこいいのができた。 ・きれいな「模様紙」ができました。 ・カラフルな「模様紙」にしたいので、次は他の色も使って完成させたいです。 ・にじみと吹流しを組み合わせで「とっておき」の紙を作りました。あと、もう少し、吹流しをして、元気なかんじにしたいです。	評価【思考・判断・表現】 これまでにできた模様を見合い、自分のイメージをもちながら、自分が作りたい模様紙になるように技法を選び、形や色などを生かしながらどのように表すか考えている。 (観察・対話・作品・ワークシート) ・個々で振り返れるよう、ワークシートを用意する。